鯨鮫史稿

三

130
72
宮内省圖書寮
藏

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

鯨史稿

130
6
72

東京圖書館
和書門
類 函 架 號 冊
一三〇 五四 七二 六

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

明治十九年一月十六日購求

東京圖書館藏

鯨史稿　巻之三

釋體　第三

鯨魚ヲ割剖スルニハ全體ヲ四段ト十又

先ヅ頭鼻ノ後ヨリ目ノ後ニ廻ラシテ耳

ヲ界ニ切放ス此一段ヲカバチト云次ニ

頭ノ後ヨリ胴ノ中程ニ至ルマデノ一段

ヲアテト云次ニアテノ後ノ一段ヲ大胴

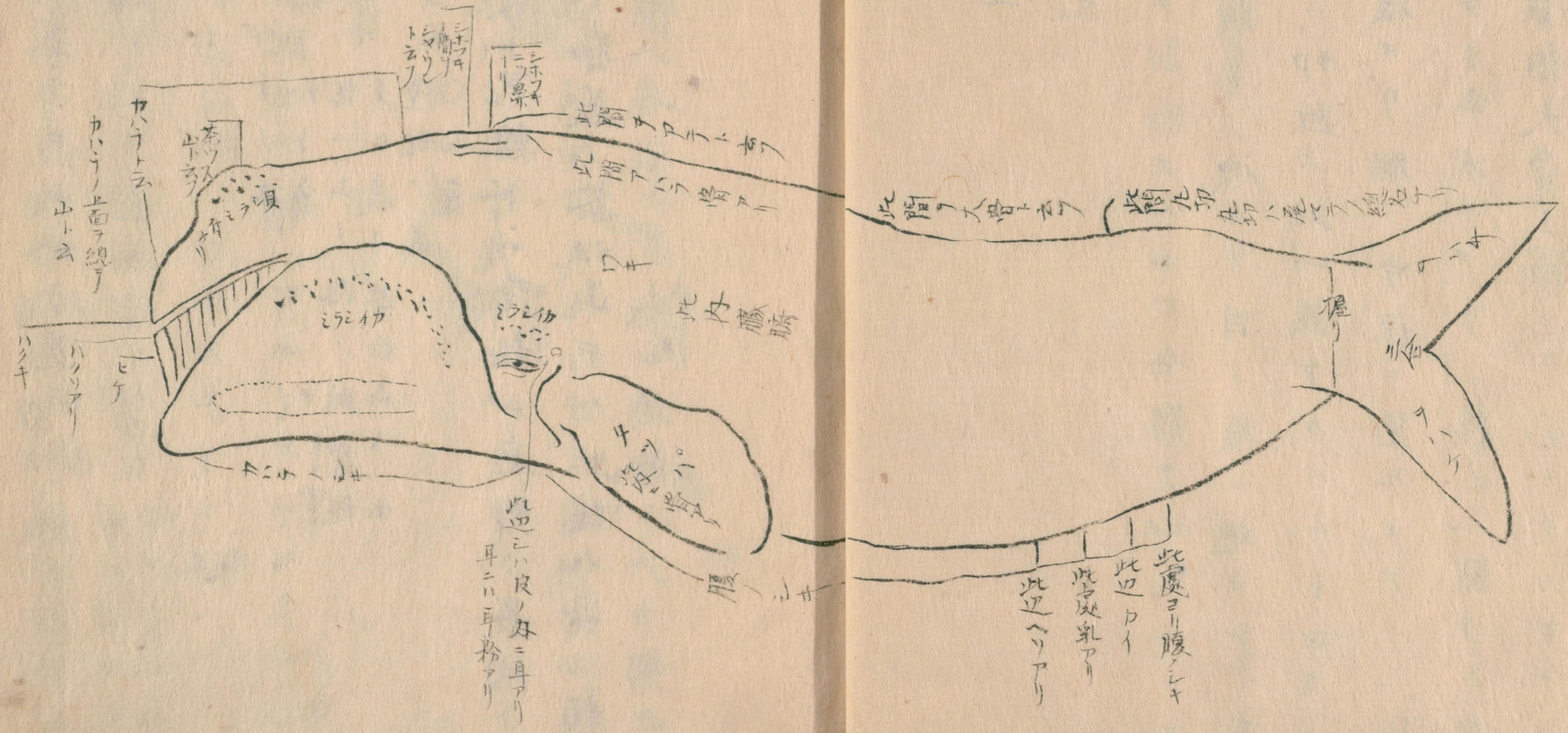
ト云最後大胴ノ後ヨリ尾ニ至ルマデノ

一段ヲ尾切ト云今其喻リ易シカ為ニ先

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

鯨魚全身図



国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

ツ此ヲ擧テ其大略ヲ見ス

頭

カバチ

ヤマ俗ニカバチノ上面ヲ總テ山ト云

チヤウスヤマ俗ニ山ノ内ノ肉突起タル處ヲ茶白山ト云

附録ホツコル隆起ノ義○和蘭

頭ノ形脊美ト児鯨トハ隆起シ座頭ト長須ト

ハ偏平ナリ脊美ノ茶白山ニハ牡蠣(カキ)乱ノ類

簇(ムラガ)リ付タリ

附録和蘭人氷海ニテ捕ル鯨頭ノ大サ體ニ

ノ一ニ居ル夫ヨリ大ナルモアリ大ナルヿ

五十二武ハシ二十武アルモアリ

脳

ノウミソ

附録ヘルスセム和蘭ワルヒスフレイン同上

ワルヒスコット上同ワルスコットヒ上同

真甲鯨ノ脳ヲ以テ龍涎香ヲ製ス巳ニ第二巻中ニ詳ニス

附録ウイッテアンヘル此ニ白龍涎ト譯ス鯨ノ脳ト云

一説アリ脳ヨリ出ルハ海上ヨリ取ルヨリ
ハヨシトスヘリ詳ニ後ノ精下ニ出ス

鼻

シホフキ

附録ブラースカット和蘭

息ツキ穴ニメ即チ鼻孔ナリ〰カリノ如キニ
孔頂上ニアリテ脳骨ニ穿チ舌根ノ辺ニ通ス
常ニコレヨリ潮ヲ吹出ス鉾数十本ヲ受タル
トキ潮ヲ吹盡シテ後ハ血ヲ吹キ死ニ至ルト
キハ唯氣バカリヲ吹凡魚ハ水ヲ口ニテ吸ヒ
鰓ニ洩ラスモノナルニ鯨ハ口ニ吸テ鼻ニ吹
テ他魚ニ異ナリ

鼻中隔

シヤウジ

潮吹ノ孔ノ中隔ナリ

下腮

ハシ俗ニ下腮ヲ觜ト云
ニヂシヅル平戸　デントウ唐津

下腮ノ骨ニツアリ下骨ノ左右ヨリ起テ前ニ
廻レリ詳ニ後ノ骨ノ下ニ出タス
上腮ト下腮トノツカイ目ノ肉ヲデンツルト
云フ

脣

タナ

附録リッヘン和蘭

タナノカハ頰ノ皮ヲ棚ト云ヒ皮トス鯨記

總シテ鯨ハ下脣上ヲ掩エリ勢美ハ前脣低シ

テ左右稍起テ半月様ヲナス左右ノ呼ノ辺ニ
至リテ後ヲ前脣ト高低齊シ児鯨ハ勢美ニ同
シテ左右ノ脣三角ノ形ヲナスハ異ナリ座頭
ト長須トハ前ト左右トハ皆平衡ニシテ左右ヲ呼
ニ至リテ漸ク前ヨリ高シ上顎ハヒケノミニ
シテ下脣ノアタル所隱然トシテ下脣ノ影ヲ
ナス

附録和蘭ノ説ニ氷海ノ鯨脣ノ先ニ上下ニ
ニ短毛アリ此脣ハ形ハヲカレ蛇又ハ蛭字

ノ形ニ似タリ上下脣ニ各内外脣アリテ上
ノ内脣ノ少上ノ方ニ黒ク又ハ濃キ灰色ノ
レマアリ脣形ニ従テマカレリ此脣ハ滑カ
ニレテ色全ク黒ク其曲レル丁、圏ヲ四分ニ
シタルカ如シ
又ヒュフ子ル云ク脣ノ厚サ膏肉一尺 曲尺二尺
二寸ハ分アリ
ニ當ル

口

俗ニ脣ノ棚ト云故ニ
タナノウチ口中ヲ棚ノ肉ト云

口ノ様子大ニ他魚ニ異ナリ
按ニ鯨ノ餌未タ詳カナラス余平戸ニテ聞
タルハ鯨カク大ナル魚ナレ𪜈餌袋ニ何物
カアリタル丁モナシ鯨記ニモ食物腹ニ曾
テ肥タルヤ不思儀ナレ何ヲ食トナレ
ノ魚ナリトヽヘリ其中ニ座頭ハ節蝦ト云
蝦ノ如キモノヲ食レタルハ間々アレトモ
他ノ物トテハ餌袋ニアリシ丁ハナシト云
ヘリ蝦夷地ノ東海ニテ座頭鯨ソエド云フ
モノヲ食レニ多ク地方ニ寄リ来ルト云フ

コレモ海鰮トハ異ナリ

附録氷海ノ鯨ハ河貝子ヲ食ス又セイポ
ントノ水豹鯨ノ食物ヲ奪フナリ白魚多キ
時ハ鯨多集ルト云又蘭人ノ説ニ鯨カク
脂多キ魚ナリ中々河貝子ヲ食シテカク
ハアルマシ其食物詳ニ知レズトソ

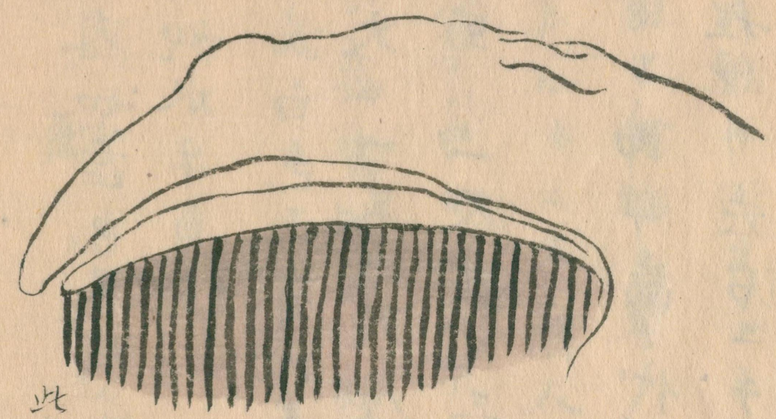
齒

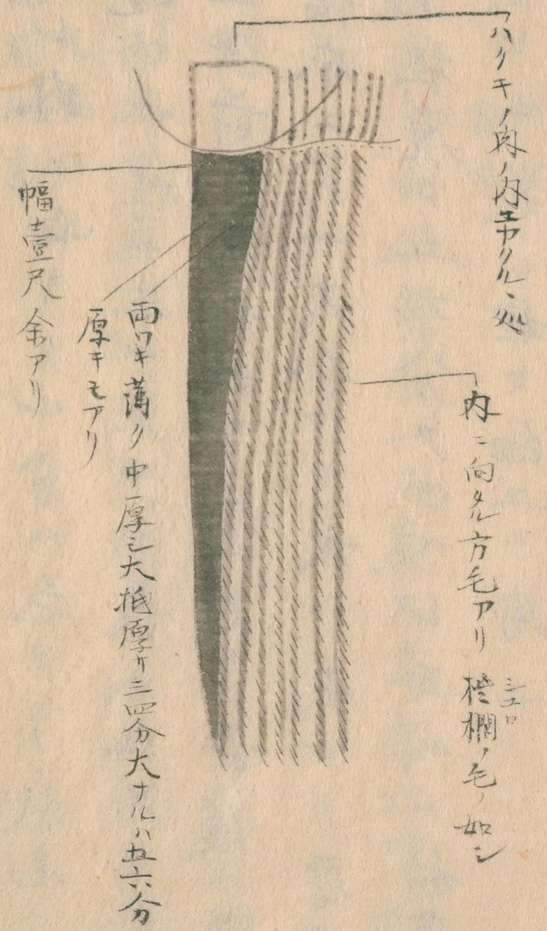
ヒゲ

附録ヒスベエン 和蘭 バレイン 同上

鰓頰中ニ出テ口内ニ如齒色黑或淡黑色而帶淺緑ヲ
有テ縱横文理而如水牛角 鯨志
児鯨鰯鯨二種齒白色而有淡黑色縱理 刪訂鯨志
小ハ一二三尺大ハ一丈二尺厚サ三四分或ハ
一寸幅三四寸或ハ一尺數凡三百餘髦髦上ニ
付下ニナシ 鯨記
上顎ニノミ生セリ即チ齒ノ代ト見エタリ一
方ニ百八十枚程アリ左右ニテハ三百六十程
アリシヤレ共多少アリ大抵三百六十八ノ前

齒圖（ヒゲ）





国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

後ナリ片々累生シテ外ヨリコレヲ見レハ櫛ノ齒ノ如シ内ニ向キタル方ハ毛アリ棕毛ノ如シ兩邊ノ中程ニ生シタルハ長八九尺ヨリ一丈ニ至ル前ニ近程短シテ三尺ノ前後ナリ一枚ノ幅本ニテ一尺余アリ末ハ尖レリ厚サハ竪ニ中程厚シ五六分アルベシ兩側ハ稍薄シ勢美ヒゲ美シ種々細工ニ用ユ

削磨則美潤工匠用之作笄櫛及尺秤之類 和漢三才圖會

為末傳金瘡止血 鯨志

ヒゲヲ磨テ灸瘡ニ傳レハ愈スナリ然レ共甚タ滲シ強シ 鯨漁叢話

附録魏武食制其鬚長一丈廣三尺厚六寸 格致鏡原

封氏見聞記用海魚鰓中毛擬作屏風貼大頭正方長四五寸廣可一寸文理色澤如水牛角 明陳耀文天中記 ○結髦居別集

夷人物ヲ入テ雪上ヲ犬ニ牽セル器ノ内ニ

鯨ノ髭ヲ用テ製スル所見エタリ邊畧分界図考ニ出ツ

ヒゲ子ル曰口中ニアルバレイン一名ヒスヘエン即チ魚骨八百アリ

魚骨ハ鯨ノヲサニシテ又歯ノ代リナリ

ヒスヘエン厚板ノ代リニ用テヨシ小匣或ハ小刀ノ柄ニモ用ユ魚骨ニ生スル毛ヲ用テ綱ノ類ニ製スヘシ羅紗モ織ルベレ麻又ハ綿羊ノ如シ魚骨ヲ取ノ術色々ノ鉄具アリト云ヘリ

齦

ハグキ

トコヒゲノ付タル床ヲ云

ハクキハ唯脊美子鯨ノハクキヲ食ス味甚タ美ナリ

トコニ齒ノ痕多シ

エンバト云ハ齒ノ附根ニアリテ食料バカリニ用ユ唐津捕鯨図說ニ出

舌

サヤ　サエ　サヤ　サエツリ

サヤノミ（俗ニ舌ノ肉ヲ云）

形チ人ノ舌ニ似タリ脊美ノ舌ハ灰色（刪訂鯨志）ニシテ或ハ帶ニ微黑（紀州鯨圖原本）タルアリ座頭ト児鯨トノ舌ハ共ニ淡黑色（紀州鯨圖原本魚譜）ナリ魚ニヨリテ油多シ又水ハカリナルモアリ生得ト魚ノ年數トニヨルナリ油ナキ所ハ食ス味甚タ美ナリ（唐津浦鯨圖說）

目

脊美眼小也大者僅ニ五寸淡黑而晴灰黑無眸子（漁人云ク凡魚魚ノ瞳子者浮水上ニ息ス氣ヲ奈眉素眉類皆然ノ○紀州鯨圖原本）

眼甚小廣ク五寸淡黑色中有黑輪輪中灰色無晴（紀州鯨圖原本或人標註）

眼亘リ五六寸目玉大橙程ニシテ左の目玉少小ニ臉（ヒタ）牛馬の目のごとし　開闔ス都て魚類の目ハ常ニ張リ開闔セス物動ろされを見へ以鯨ハ是ニ異ナリ（鯨記）

口ノ後ニアリ眶ニ睫生シテ瞬キス其體ニ比
スレハ至テ小十リ脊羨ハ上眶ノ邊ニ分虱ノ
類附ケリ
烏珠子如水精之磨雖為佩飾而軟古有但馬國
獻鯨珠者然則堅而如銖亦有之乎 本朝食鑑
附録魏武食制瞳子如三升椀 格致鏡原
南海有明珠即鯨魚目瞳鯨死而目皆無睛可
以鑒俗謂之夜光
倭國有如意寶珠其色青大如鷄卵夜則有光
云魚眼睛 隋書
開元七年大拂涅靺鞨獻鯨鯢睛 唐書
女直土產鯨睛 華夷風土志
鯤鯨眼睛如明月夜珠 琢王雜字
異物志曰鯨鯢或死於沙上得之者皆無目俗
言其月化為明月珠 翼雅
廣州記死不見有眼睛 潛確類書
異物志の此說と思ふる死して寄セ來り目
腐爛れたるものゝ〻ん明月珠不審なり 鯨記

氷海ノ鯨ノ目牛ノ目ノ大サノ如シト云

耳

ミヽ

ミヽコ 俗ニ耳垢ヲ耳粉ト云

耳ハ目ノ後チ皺皮ノ中ニ小孔アリ形チ⊙カ
ク ノ如ニノ容易ニ見ヘ分タズコレヲ解ケハ
内ニ耳竅ヲ通シ耳底骨凹陷ヲナシテ鼓膜ヲ
張ル其骨硬キ石ノ如シ此骨用ル所ナシ 此華
鯨漁叢話ニ出

附録ヒュフ子ル曰鯨ノ耳ハ聰ナリ
耳垢丸ク固マリタルモノナリ耳ノ中ニアリ
藥ニナルト云ヘリ

右第一段頭ノ部ヲ釋ス

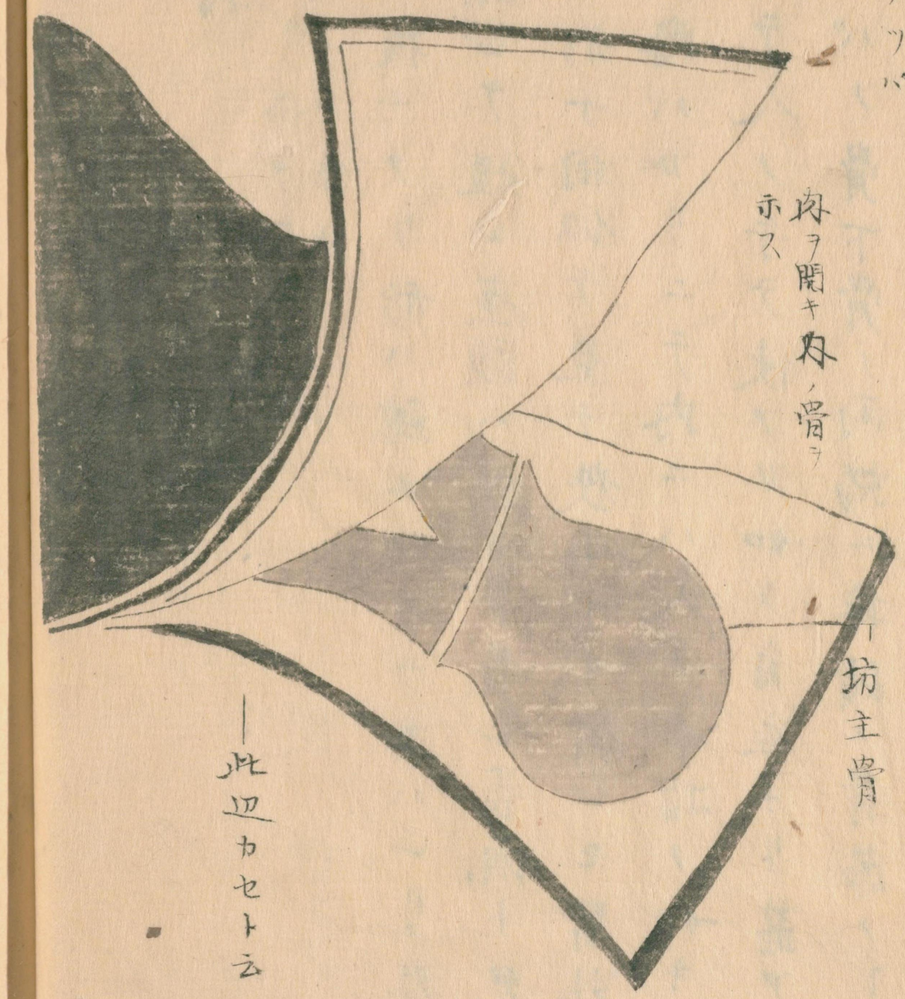
国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

領膏鰭

タツパ（俗ニ立羽ニ作ル）

目ノ後ニアリ形ハ鯨ニヨリテカハレリ脊美ハ濶シテ短シ座頭ハ狹シテ長シ長須ト児鯨トハ形チ相似テ至テ狹小ナリ何レモ皆外ハ全ク肉バカリニテ内ニハ人ノ手指ノ如キ骨アリテ人ノ手ヲ使フカ如ク自在ナリ筋アリタツパノ骨下骨ノ両端ニ接續ス骨節ノ丁ハ詳ニ骨ノ部ニ出セリ

脊美領亨鰭圖（ワキヒレ ノツバ）



外面ハ皆肉ハカリナリ
肉ニハ人ノ指ノ如キ骨アリ　下ノ図ニ見ユ

鰭鬣肉充ル食用者脊美座頭児鯨刪訂鯨志
鮫肉無毒且味淡脆也鯨志曰鬣肉有毒不可妄
食非也刪訂鯨志
附録氷海ノ鯨タツパ骨節ノ間ニ神經アリ
切テ地ニ擲テハ飛アカル他物ノ神經ヨリ
至テ難シフカノ軟骨モ同然ナリ妍キ白キ
筋アリ皮ノ内マテ透ル黄ナル筋アルモア
リ
右第二段アテノ部ヲ釋ス アテニ脊椎助
等ノ骨アリ臓
腑等ノ了モ詳
カニ後ニ出ス

脊上鰭

イボ　タチヒレ　鯨志

脊椎ノ二十三四節目程ニ當レリコレハ座頭長須鯨鯨ニアリテ勢美ト児鯨トニハナレ鯨ノ鬣ヲ取ルニハ潮吹ヨリ北イホマテヲ見ルナリ

臍

ヘソ

ヘソノオ　臍帯　ヲ云

工十胞ノ云

臍腹ノ後陰ノ前ニアリ

子鯨ノ臍帯味耳美ナリ

胞モアリト云

陰所

カイ

臍ノ後ニアリ外見バカリニテハ雌雄見分ケ

難シ夫故雌雄ニ陰所ノ開ト云フ雌雄ヲ下

ニ分チ出ス

陰莖

タケリ　ハヤリ　ラ　唐津捕鯨圖說ニ褌ト云

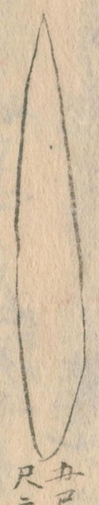
附録ルーテ　勵

陽物長サ一丈許リ圍ミ三尺餘拳のごとし

常ハ腹内ニ有テ見ヘズ

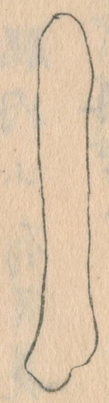
カイノ内ヨリアリテ莖ノ皮ノ嚢アリ脊義ハ

色黑シ座頭ハ色白シ



五尺ヨリ六尺ニ至ル

カリノ如キノ縫裂アリテ莖ハ内ニ藏ル時
ニヨリ脫出シテ斃ルヽモノアリ故ニ唯開
ノミニテハ雌雄見分カタシ



莖ノ形チ大略圖ノ如シ 此事鯨魚叢話ニ出ヅ

治婦人帶下及一切冷氣 鯨志

干ー乾して蓄へ置き久き痢病或ハ瘧疾ホ
用る妙ありて痢みを味噌汁にて煎出し汁を
吸又腎を補ふ腥臊の代りに用ひて年久し
き程よし 鯨記

婦人ノ血症ニ用テ効アリ 鯨魚叢話

俗ニ痢病ノ妙藥トいへり法ルモノニテ痢ノ初發ニハ
大毒ナリ久シクシテ瘧サル等ノ痢病久漏
ニハ宜キヿモアリトいへり 唐律捕鯨圖說

附錄ヒュフ子ル曰ルーテ長サ八武能洗ヒ
テヨシ乾シ赤痢ニ用ユ 歐羅巴人印度人
ニナラヒタル秘事ナリ

陰囊

キンツウ

陰戸

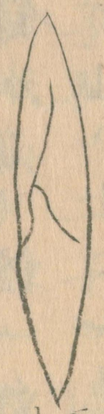
カイ（西海）　フケリ（紀）

ヒナ（秘陰捉ヲ云）　マメ

ツヽ（俗陰門空ヲ云）

陰穴形ち人に替らぬ見る者面を伏さへし（鯨記）

雌雄開ノ骨ニ輪骨二ツ



長三四尺或ハ二尺四五寸
山ノ高サ六七寸大サ一尺ハカリ婚ル

アリ魚ニヨリテ一ツアルモアリ此事鯨漁叢話ニ出ツ

雌鯨之陰方言称ス之弗計利功用同シ打計利訓（鯨志）

ツヽハ陰口ヨリ子宮マテノ間ナリ

陰捉男子ノ泄利ニ用テ功アリ

産

鯨何れも一子を産む偶胎ハ有る子一二尺の物全體備れり（鯨記）

妊娠十二月ニシテ産スト云傳ルヨシ産ノ時ハ苦ケニ息吹カ如キノ聲ヲナス下リ物ト見エテ油ノ如キモノ夥シク水面ニ浮ブ小産ノ子モアリト見ユ子ニハ臍帶アリテ人ニ同シト云

附録氷海ノ鯨一乳二子ニ過キス嘗テ死鯨ノ乳ハリタルヲ得テ腹ヲ剖テ窺フニ一子又ハ二子ニ過キス其孕タルノ間何月ナルヲ知ラス或曰牛ニ比ス然レトモ未タ詳カナラス

交合

タツパタテ

春ノ彼岸頃ニアリ鯨夫合ノトキハ雌雄横ニナリテ頭ヲ合セ下ニナリタル立羽ニテ水ヲ切リ上ニナリタル立羽各一ツヲ成ス故ニ立羽立ト云水面ニ精水夥シク浮フナリ

此時ハ舟近ケ𠦪逃去ラス心易ク捕フルコ
レハ壹岐邊ノ海ニアリト云
附録氷海ノ鯨交ルトキハ頭ヲ合テ水上
ニアクモト鯨ハ身熱スルユヘ久ク海底
ニ居ルヿナラヌモノナルニ此時ハ取分
身熱スル故頭ヲアケテ浮出ルトソ

精

附録スペルマセテイ刺甸サート和爾
附録氷海ノ鯨ノ精美白其香小麥ノ粉ヲ
煮タルノヽ如シ其質膠漆脂蝋ノ如シ子
バリアリ久ケレハ黄色ヲ帶テ臭悪シ蟲
ヲ生ス
能水上ニ浮フ故桶ヲ以仮取ルヿヲ得
按ニ西洋人鯨精ヲ以テ龍涎香ヲ作ルト
云因テ其説ヲ下ニ出ス
ヒュブ子ル曰ク
スペルマセテイ精ト譯ス
ウイッテアムヘル白龍涎ト譯ス

フルスマーリス
サアリス
デイ子マルカ　スエヒヤ
ハムビュルク　アムステルダム
リュベツキ
初ハ色悪クベタヾヽシレタルモノナリ此
國々ニテ製法シテ色白クナリテキラヽ
ヽスルナリ尚ベタヾヽシレタルアブラケ
アリ或人ノ曰ク海ノ上ニ泡ノ如ク浮ヒ

タルモノナリ又一説ワルヒスサート鯨精
ト譯スクシラナキ處ニテ見テモ又一説是
ハワルヒスブレイントヽ云鯨腦ト譯ス又一説
腦ヨリ出ルハ海上ヨリ取ルヨリハヨシ

制法

ヨキ水ニテ洗ヒ煮テサマシ上ノ子ハル
モノヲ去ルナリ

又

灰タヽト未燒石灰少シトヲ以テアクヲ作

リ木綿切ニテ漉シ滓ヲ去リ夫ヨリ腦ヲ
トリ毛ニテ織タル袋ニ入レボリ出シ袋
ニ殘ルモノヲ取テアクニ入一日一夜ヲ
キテ又毛袋ニ入テ搾出シ是ヲ手ヲ以テ
木綿切ノ上ニ取出シ廣キ處ニオキテ日
ニホシテスヘルマセイテイトナル白ク
シテ香氣アリ新キヲ善トス
カラーウアムヘル
灰色ニ近シ

乳房

雄ノ乳ハ閼ノ元ニ附カス高ク前ノ方ニ附雌
ハ閼ヲ夾ミテ閼ノ元ニ近ク附ケリ乳房ノ所
竪ノシワアリ乳頭其中ニ藏レタリ引出セハ
乳頭出ツ大サ茄子程アリ乳房ハ肉ニアリ白
色ニシテ金色マナル二拾貫目程ノ肉塊ナリ
形チ左シ二人ニテ持ツホトノ重サアリ此肉
味佳ナリ乳汁白シ一荷ヒ程アリ児ニ乳ヲ飲
シムルトキハ横ニナリテナルナリ児ノ乳ニ

吸付テ居ヲ往々見ルモノアリ乳汁亦メ酸味ヲ帯リ

糞門

閑ノ後ニアリ

糞色黄ニメ人糞ノ如シ（鯨漁叢話）

糞往々迄澁水面漁人攫之晒乾用燒烟薫瘡瘡黒陶即効大抵有黒白二種効用並同奸人或用其黒者偽雑麝香宜辨認焉（鯨志）

按ニ自糞黒糞ノ外ニ茶糞アリテ凡ソ三種アリ大和本草ニ龍涎香俗ニ鯨糞トシト見エ又長崎ニテ聞クニ鯨糞ノアンペラトシテ阿蘭陀人ニ賣渡スヨシナリアンペラハラムペルノ訛ニシテアムペルハ龍涎ノ義ナリ然レハ蕃人此糞ヲ持帰リテ龍涎香ヲ製スルヿナルベシ上ニアムペルヲ製スル地名ノ称ニ見エタルアムステルダムハ即チ阿蘭陀ノ都ナリ又按ニ余西海ニテ聞ニ西海ニハ鯨志ニ云フ如ノヿナレトモ畢竟糞ハ真甲ヲ以テ住トシ

テ真甲ハ西海ニ居ラヌ故此事ナシト思ハル
鯨皆當肛糞而斯所称者思當如鮓若者諸鯨没
有但末孤之大腸中有之而甚希得郷語方言又
謂之為鯨糞四方販鬻者市称謂鯨糞然非鯨之
常屎也則是一種之物耳（刪訂鯨志）
按ニ此説ニ據レハ鯨糞ハ有ルヿ没シテ一種
ノ物トス然ルニ果シテ然ルヤ否ヤ審ラカニ
セス

附録鯨糞 スヘルマセチ一名 アムブラアル
バ又ハロスアンース又ハロスマリス和蘭
呼テワルスコット又ワルヒスブレイント
名ク白色脆輭脂油多ク小サキ苔ノデキタ
様ナリ脂膩ノ味ニメ油臭アリ真生ナルモ
ノタクハ卧見業得無ヨリ持来リ此土ニ於
テ製ス昔ハ真物ヲ審ニセサルモノニメ真
説區々アリ今ハ則真物ヲ詳ニスルヿヲ得
タリ是鯨脳ナルノミ別ニ名テカリレットト
名クスヘルマセッチトニフモノニ製スル

時ハ物ヲ疏解スルノ功アリ主治胷ノ諸病
小児腹肚拘攣絞痛打撲損傷血ノ凝結ヲ解
釋シ能ク疼痛ヲ和ク又エムブラストリュム
デスベルマテセッテトニフ膏藥ニ作テ乳房
固結ノ腫ヲ和ス蘭畹摘芳

右芽三級大胷ノ部ヲ釋ス

尾

オハケ 西海 オハキ 紀州 ナハヤキ 鯨記 オハイ
ケ 中國辺 テイラ 鯨記
ニキリ 俗ニ尾ノ附根ヲ握リトヽ云
ミツアヒ 俗ニ尾ノ岐ノ所ヲ三合トヽ云
座頭脊美鯨三種鮒肉充食用其餘三鯨不多
用食料 明言鯨志
尾ノ付根左身ナリ尾ハ皆肉ハカリニテ左右
二分ル俗ニ云金魚尾ノ如シ鮒尾ト異ナリ三

合ノ内ニアメリテ脊椎ノ行止リノ骨アリ筋モアリ尾肉味甘美ナリ

三年ヲ経タル尾肉ハ下痢ヲ止ム鯨海ニ長シタルモノハ常食故下痢ニ用テモキカスト云

按ニ鯨志ニ鰭鬚鮒氏ニ有毒不可妄食ト云ヘリ海西ニテ問ヘハ尾肉末程ヲ食トス

附録氷海ノ鯨尾ノ廣サ三四尋アリ一尋ハ六尺ニ分ツリ一尺ハ一寸ニ分ツリ

尾ノ付根其形チ方ナリ尾肉ノ薄キ処ホト神経多シ舟ノ柁ヲ使フガ如クナルモノ故ナリ神経鞭ニ製スヘシ

和蘭人ノ説ニ鯨肉ヲ食ハント欲セハ尾肉ニ如クハナシ塩蔵ニシテモ食トスヘシ

右第四段尾切ノ部ヲ釋ス

皮

コロモカハ

クロカハ

シロカハ　シロミ

カバチノシキ　俗ニ頷ノ皮ヲ云フ

ハラノシキ　俗ニ腹ノ下皮ヲ云

鯨ノ全身黑漆ニ塗タル合羽ノ如シコレヲ衣皮ト云テ紙ノ厚サナリ是ハ綱ニカヽリ又ハ取扱フ片盡ク剝テ落ルナリ其次虎ハ黑皮ナリ

勢美児鯨ハ厚サ三四分座頭ハ二分長須ハ一分タラスナリ其次ハ白身是モ皮ト云油トル所ナリ腹部厚シ其最厚キモノハ一尺二寸許リ脊ハ一尺ホトアリ其次ハ赤身ナリ 鯨漁黄話

勢美ハ黒皮ト白皮ト界ノ白皮七分ハカリノ所ニハ脂少シ其次ノ白皮ニハ脂多シ 雑頭ハ黒皮モ白皮モ脂アリ長須モ同シ 唐律捕鯨圖說ニ出

膚色黒而味淡草色白而味極甘美最宜食用而不可多食肥膩易停滞 鹽蔵者峻補腎胃肥健人治虚冷久瀉而多食難化溲熱盛者忌食人生者煎熬之採膏以鬻四方為燈油其光焰明瞭勝於諸燈油遠矣故工人做夜作往々用點燈又煎熬渣叫為以利加刺賤民普通以助餐 鯨志

末狐長須鯨鯨之三種不多與食用 刪訂鯨志

油ヲ採タル渣ヲイリカス又センジカス 海西ト云フ

肉

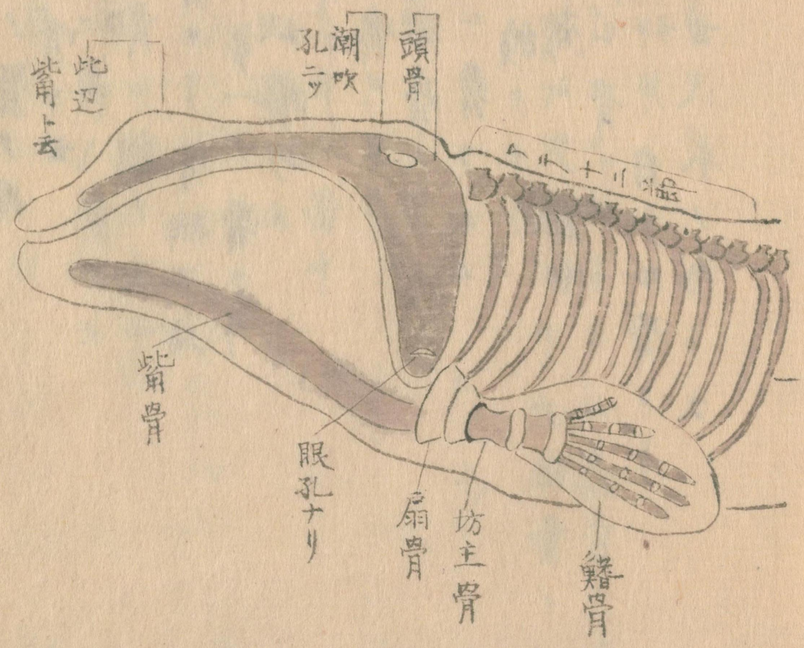
アカミ 俗ニ肉色赤ニヨツテ云

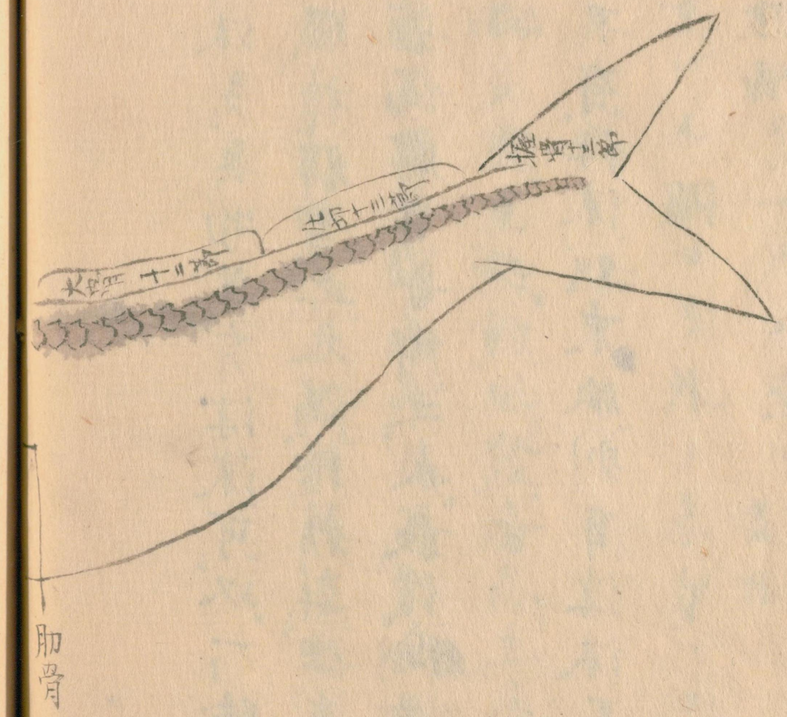
白皮ノ内ニアル赤身ナリ背ノ邊厚サ二三尺
胸先ニテ五六寸腹部ニテ一二寸小腹陰具ノ
邊ニテハ七八寸ヨリ一尺ニ至ル鯨漁畫話
頭ノ赤身善シサレ𪜈胴ヨリ外ノ赤身ハコハ
シ
氣味甘熱有小毒多食生熱動風發瘡疥生痰傷
脾胃患膊積及崩漏帶下或瘡疥人不可食鮮肉
純赤鹽藏肉紫黑色氣味大劣於鮮肉近來用馬
偽造者為臘浮沫多真物莫有浮沫可以一驗鯨志
氣味甘溫溫五臟補脾胃止久瀉增精氣謂其生
熱發瘡疥其然若傷脾胃吾所之未敢信刪訂鯨志
六鯨皆可食刪訂鯨志
不可必謂真物其有浮沫如末狐則有浮沫不可
概論刪訂鯨志
苛酸大溫無毒食療正要

骨

カバチノホ子頭骨ヲ云

脊椎全骨圖





国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

ハレノホ子　正腮ノ骨ヲ云

カブラホ子　上ノ脊ノ骨ノ内ニ有軟骨ヲ云

レンゲホ子　ホタ詳カナラズ

テウチンホ子　頭骨ヨリ脊椎ニ接スル第一ノ骨ナリ

ガメホ子　入カ子ニ云桃灯ニ縁ク骨ナリ

ムナホ子　カメ骨ノ次ニシテ脊椎ニ縁ク骨ナリ

アテノホ子　脊椎ナニ骨ヲ云ムナ骨ニ縁クナリ

アバラホ子　脊椎ヲ夾ミテ左右ニ付メル骨ナリ

アラホ子　阿腹骨ノ如ク自タル骨ナリ夫故阿腹ナハ本ノ内ト云

アフキホ子　胴ノ左右ニ付タル骨ナリ

ボウズホ子　紀州ニテマロホ子ト云扁骨ニ縁キタル骨ナリ是ヨリ立羽骨ト云

アシタル骨ナリ　坊主ニ縁キ

ツノロホ子　立羽ノ骨ナリ

ヲホホ子　アテニ縁キタル骨ナリ節ニ大骨ト云

ワホ子　開ノ内ニアリ

マルキリノホ子　大骨ニ縁キタル十二節ノ骨ヲ云

クラホ子　左切ノ内ニ有骨ナリ

ニキリノホ子　大骨ニ縁ク十二ノ骨ヲ云多少アリ脊椎ヨリ縁キタル骨握リ

ノ骨ニテ止ルナリ

頭骨一　端骨二　蕪骨一　蓮花骨二

桃灯骨一　カメ骨一　肩骨一

アテ十二　阿腹骨二十四　フラ骨四　肋骨エブラ骨

ヲ加テ阿腹二十八本ト云　雑頭長須同シ

扇骨二　坊主骨二　足四　ツヽロ骨四十

八　片立羽廿四充ナリ一ツ二ツ多少アリ座頭ハ片立羽二十三充両立羽ニテハ四十六ナリ

大骨十二車　雑頭十車長須十三車

閑内輪骨二

左切十二車　雑頭十車長須十四車

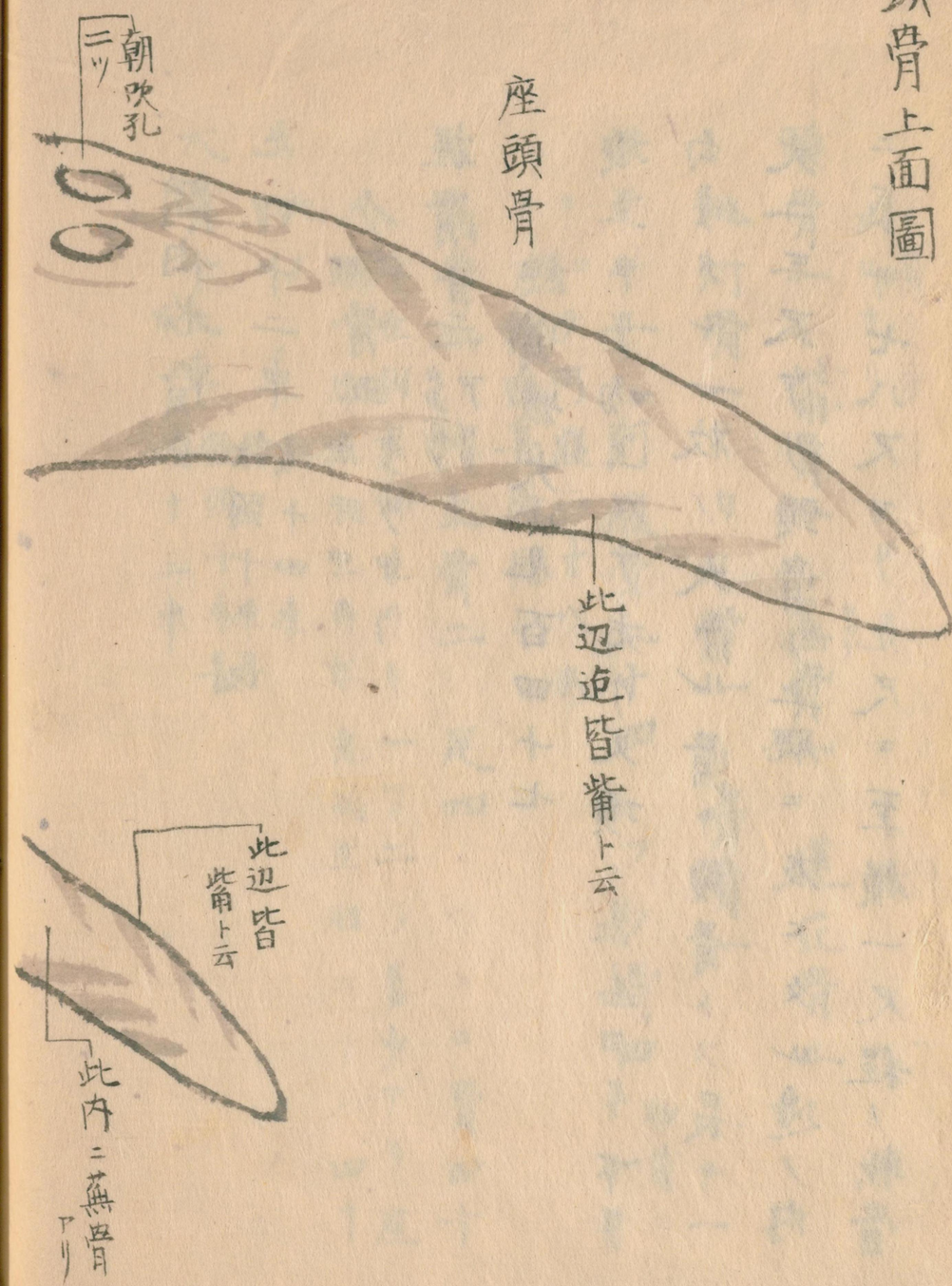
クラ骨五　魚ニヨリテ多少アリ

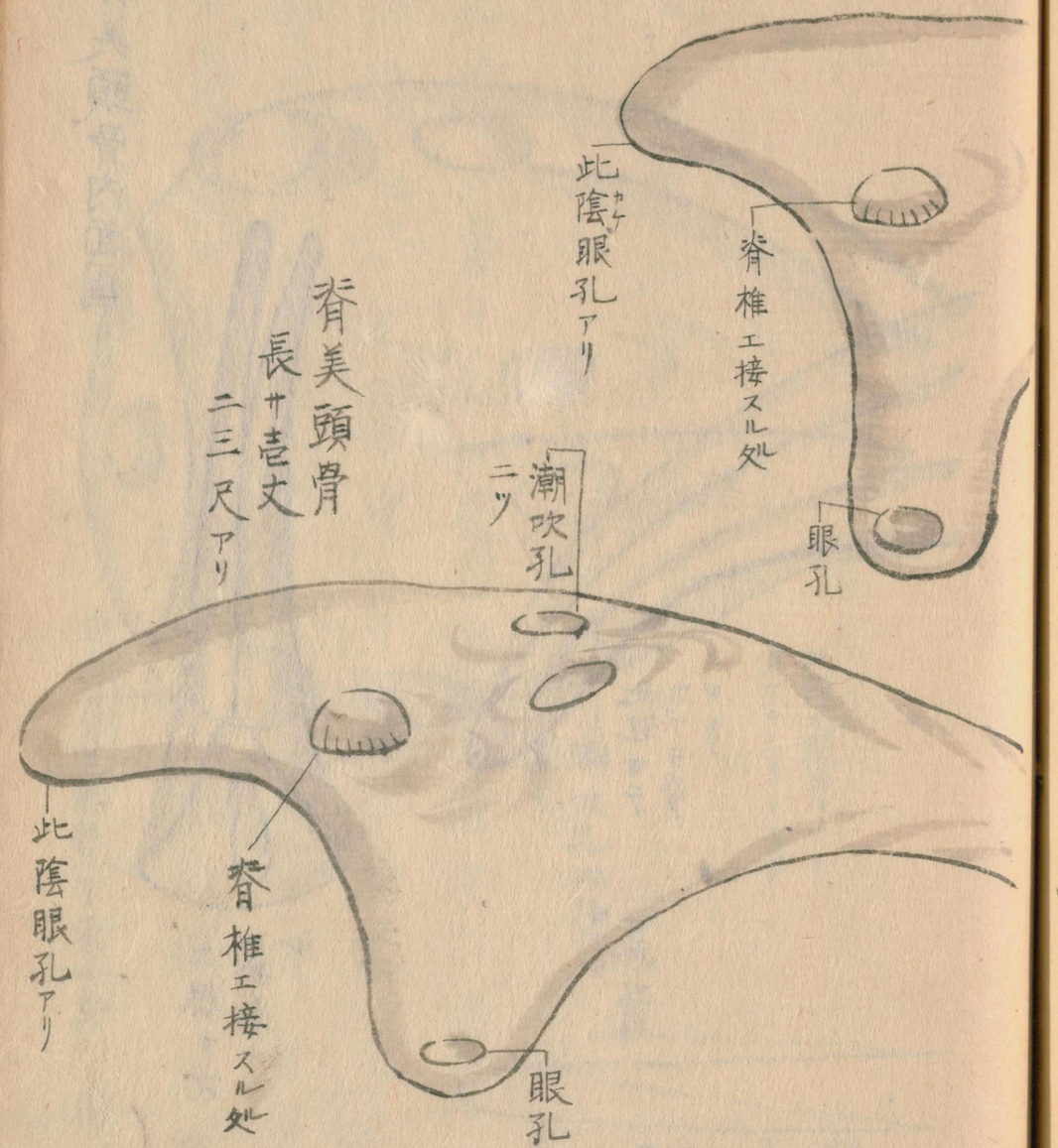
握骨十二　多少アリ

總骨数大小凡百四十七

項上ヨリ吻上マテ走リ又項ノ左右ヨリ下リ勾リタル一枚ノ大ナル骨ヲ頭骨トス長サ一丈二三尺アリ頭骨ノ上腮ニ及ヒタル邊ノ内ニ長サ七八尺ヨリ九尺ニ至横一尺程ノ軟骨

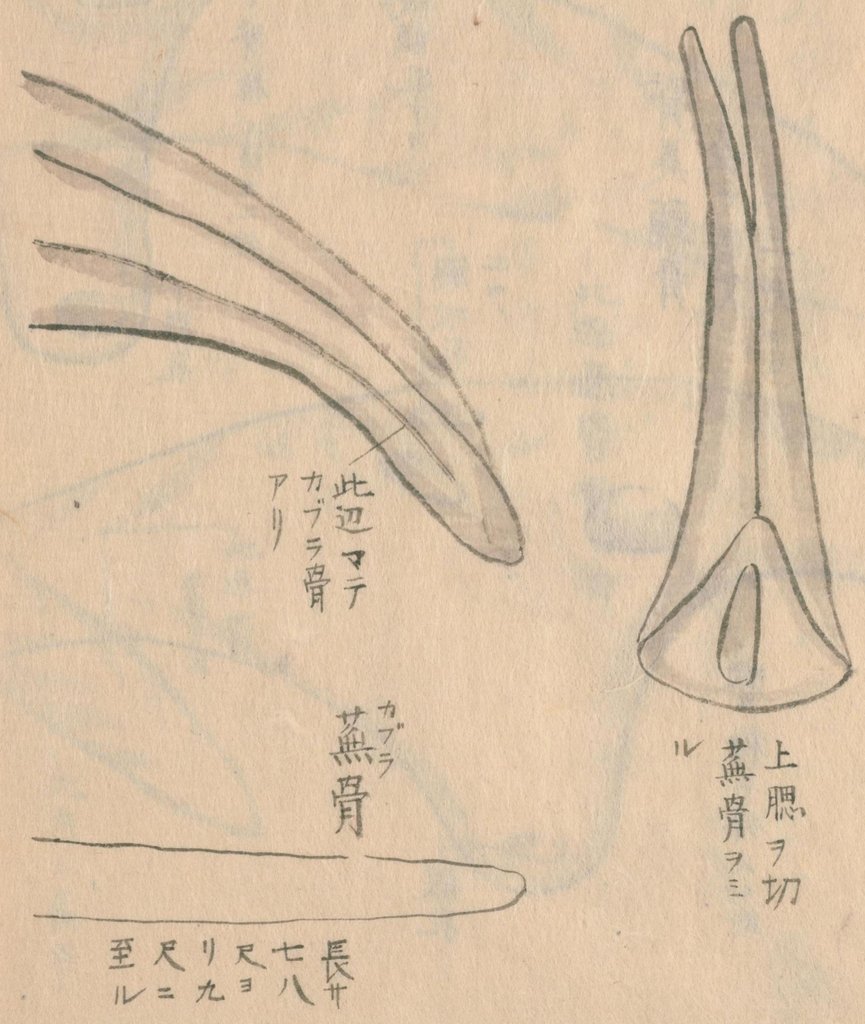
頭骨上面圖

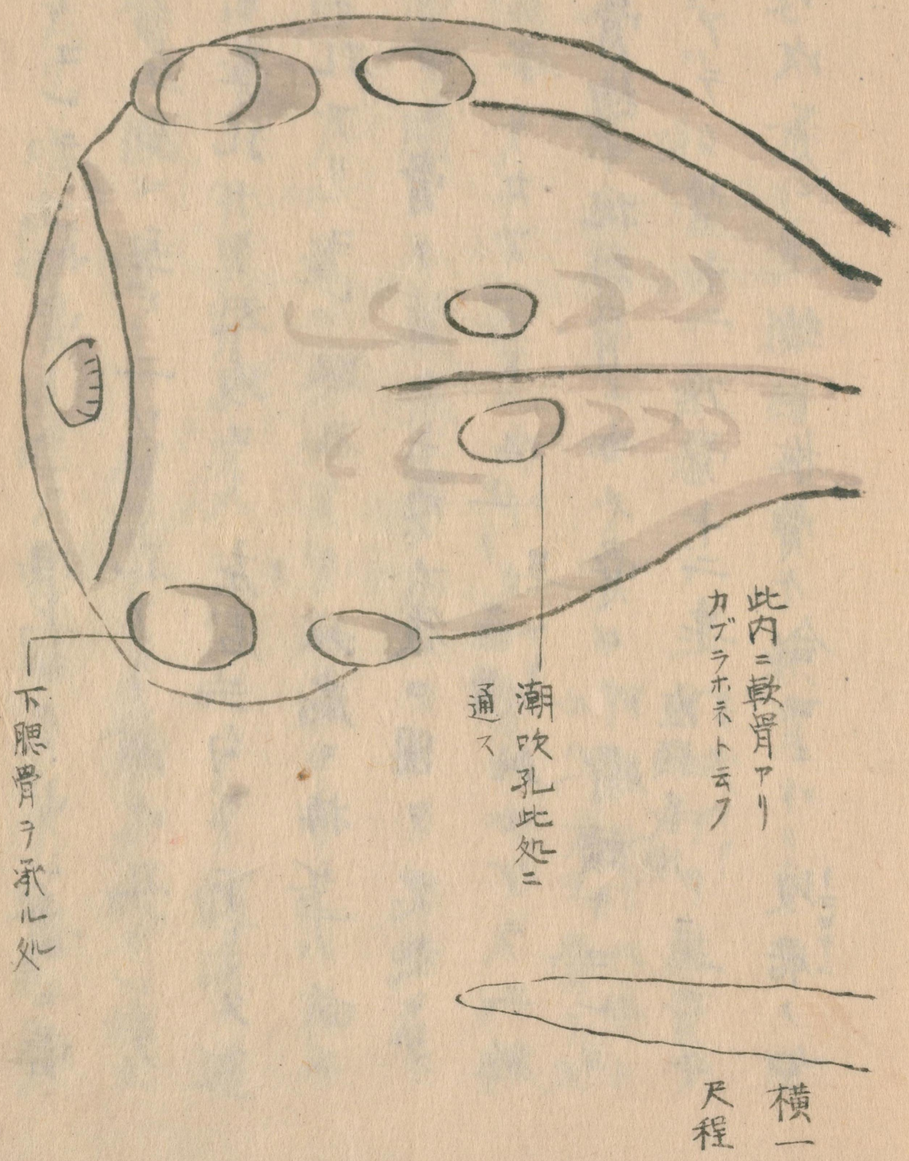




国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

脊美頭骨内面圖

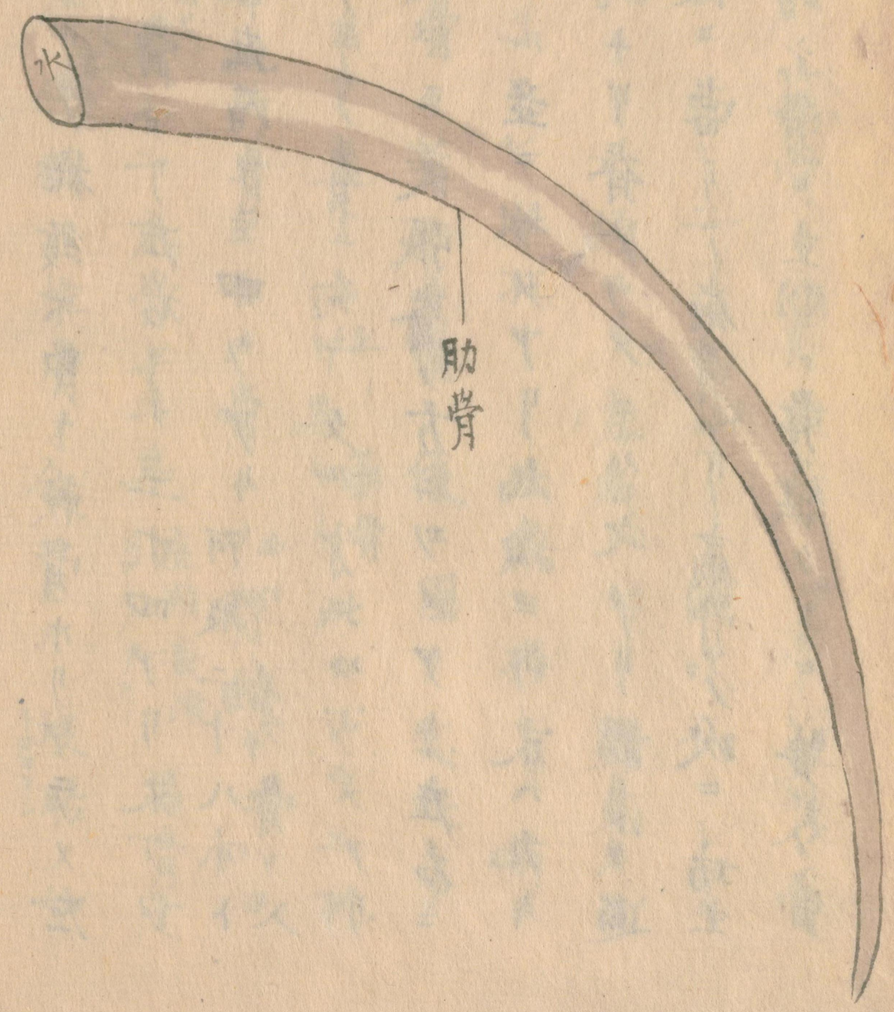


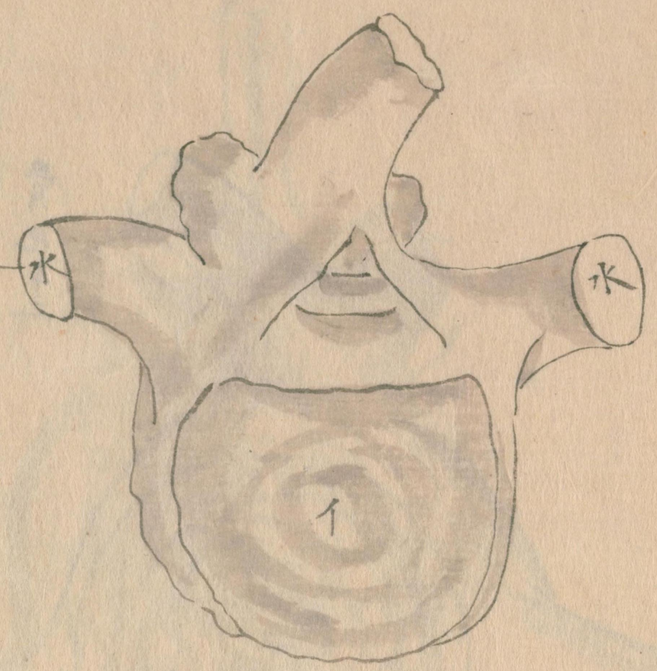


国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

アリコレテ蕪骨ト云其頂上ヨリ少シ前ニ當
リテ左右ニ並ヒ二ツノ孔アリ嘲吹孔ニシテ
即チ鼻孔ナリ又項ヨリ左右ニ勾リ下リタル
末ニ孔アリコレ眼孔ナリ此處ニ接シテ前エ
廻リタル骨ヲ觜ト云項ノ後ニ圓ク突起シタ
ル處アリカブラト云上ノ蕪骨ト異ナリ此カブラエ桃
灯骨續キ桃灯骨エカメ骨ムナ骨續キコレヨ
リアテノ骨十二大骨十二車座頭長須握骨十
二ト次茅ニ連續ス椎骨ノ合口ニハ瓔珞ノ如
キモノアリテ接續ス即チ軟骨ナリアテノ左
右ニハ肋骨アリ左右ニテ二十四アリ又ブラ
骨二ツ宛左右ニ四ツアリ阿腹二十八本ト云ハブラ骨ヲ入
テノ数ナリ アテノ脊ニ向キタル方ニハツメアリ
大骨ノ間ニモ矢張脊ノ方ニツメアリ左右ニ
モ肋ノアル並ニツメアリ丸切ヨリ末ハ丸キ
骨バカリナリ脊ノツメニハ穴アリ髓液ヲ通
ズ觜ノ後ニ當リテ扇骨アリ扇骨ノ次ニ坊主
骨アリ坊主骨ニ立羽ノ骨継クナリ勢義ニテ

アテ之圖





コレヨリ大骨ニ續ク

アテノ骨皆
圖ノ如シ
骨凡十二

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

大骨之圖

此以下ハ肋骨ナシ
骨尺十二

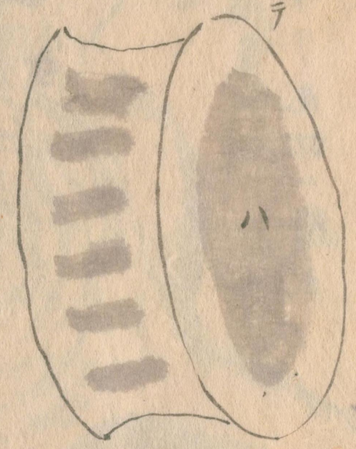
此処アチヨリツヽク

コレヨリ尤切ニ續ク

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

尤切骨圖

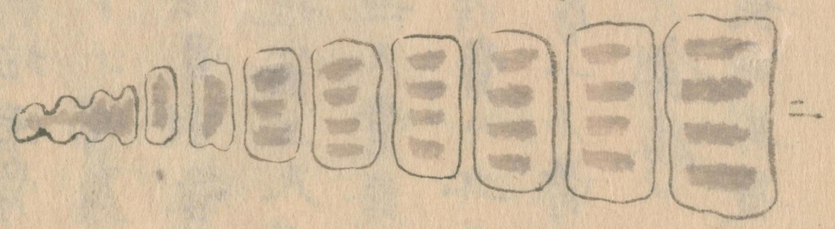
尤切ノ内握リマテ
骨尺十二



此処大骨ヨリツヾク

コレヨリ握リノ骨ニ續ク

握リヨリ三合マテ
骨節尺十二



平戸ノ俗之ヲ
五リント云

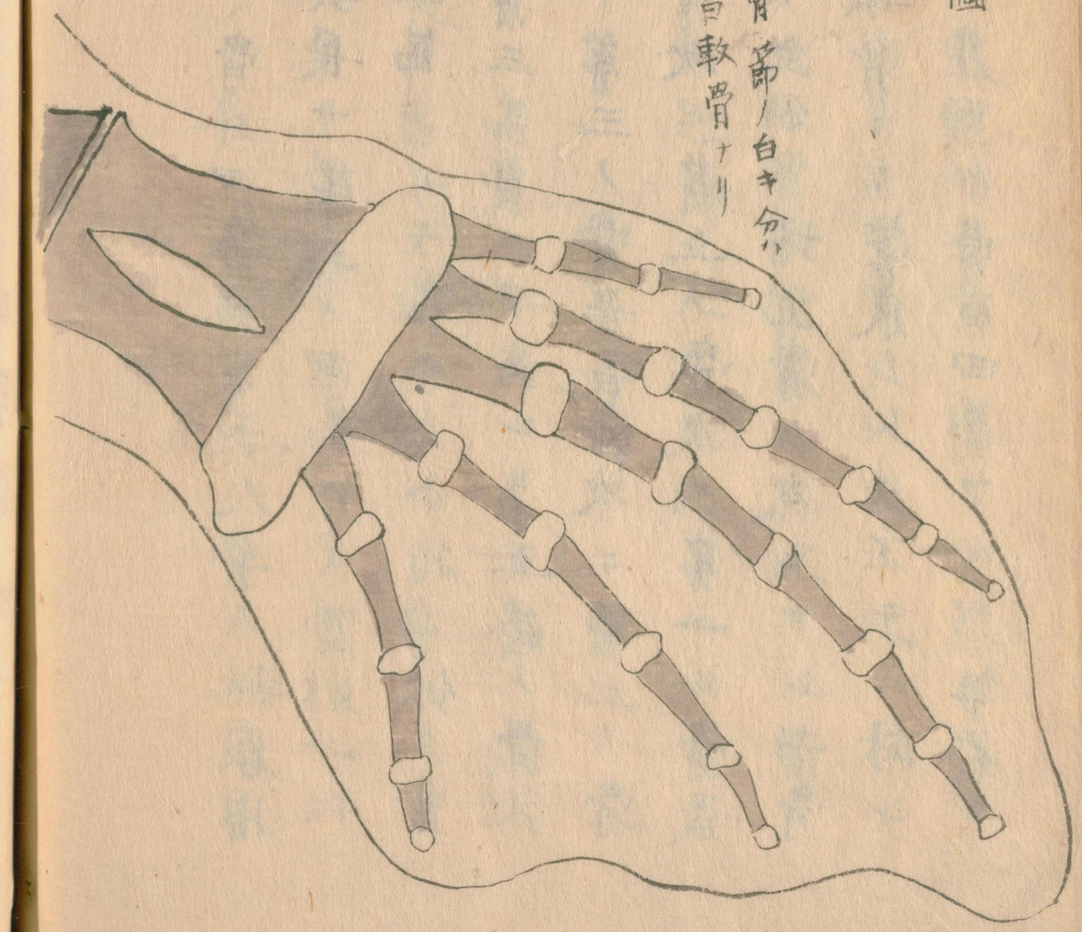
国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

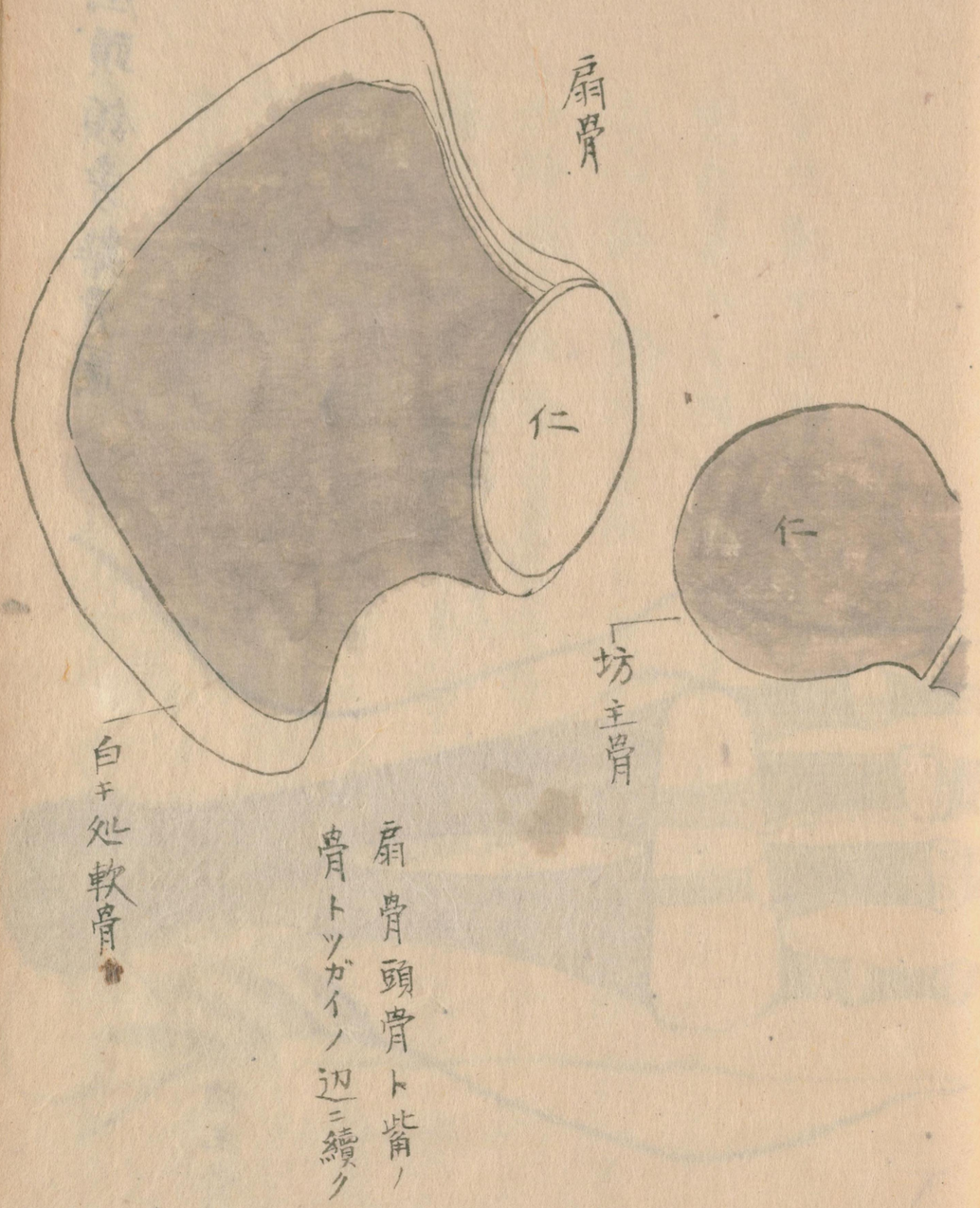
云ヘハ立羽ノ骨ハ坊主骨ノ次ニ二箇ノ大ナル骨相並テ連レリコレヲアシト云次ニ大ナル軟骨アリテ此二骨ヲ管束シ其次ニ五箇ノ骨相並テ骨ノ長短恰モ人手五指ヲヒロケタル状ニ似タリ第一ノ骨ハ二節アリテ人ノ大指ニ似タリ第三ノ骨ハ五節アリテ人ノ將指ノ如ニメ其長サ第一ノ骨ニ倍セリ第二ノ骨モ五節アリ人手ノ食指ト思ハレテ食指ニ比スレハ恰好少ク長シ其長第三ノ骨ノ五節目

ニ齊シ第四ノ骨ハ四節アリテ人手ノ無名指ニ比メ短シ其長サ第三ノ四節目ニアタレリ第五ノ骨ハ三節アリテ人手ノ小指ニ似タリ其長第四ノ骨三節目ニアタレリ五箇ノ骨ノ長短ヲ言ヘハ第三ノ骨最長シ次ニ第二ノ骨次ニ第三ノ骨次ニ第五ノ骨次ニ第一ノ骨最モ短シ坐頭ノ立羽ハ坊主骨ノ次ニアシ二骨アリテ夫ヲ軟骨ニテ管束シタルマテハ同シ丁ナリ其次ニ座頭ノ骨ハ四箇アルハ勢義ニ

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

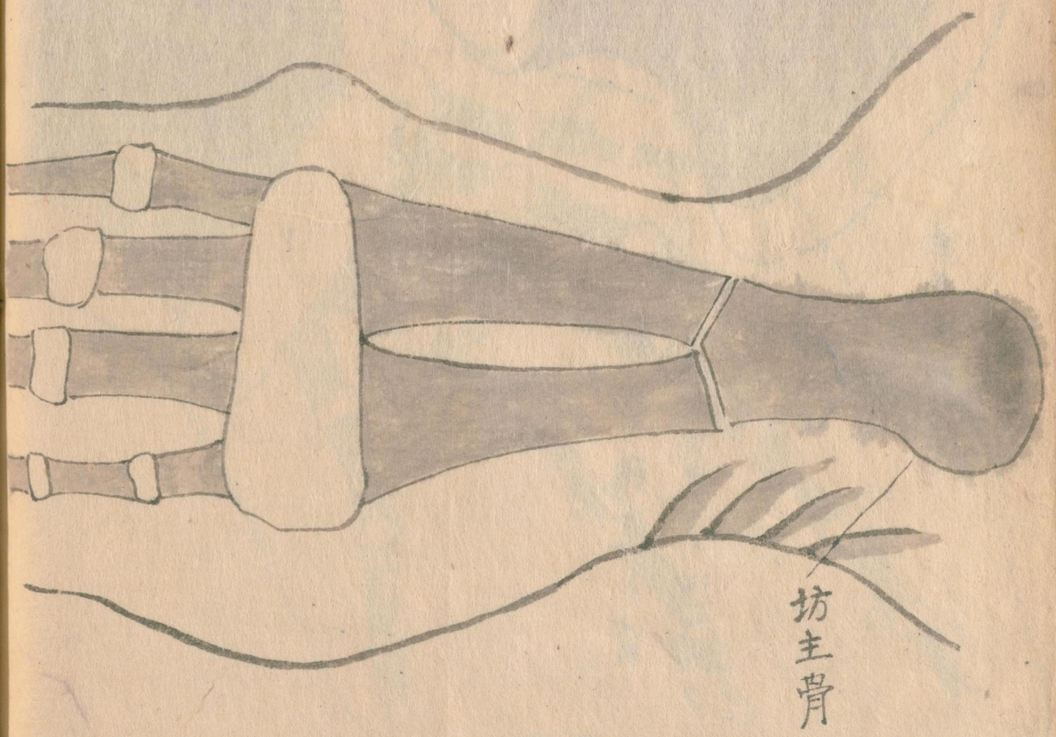
脊美領旁鰭骨之圖

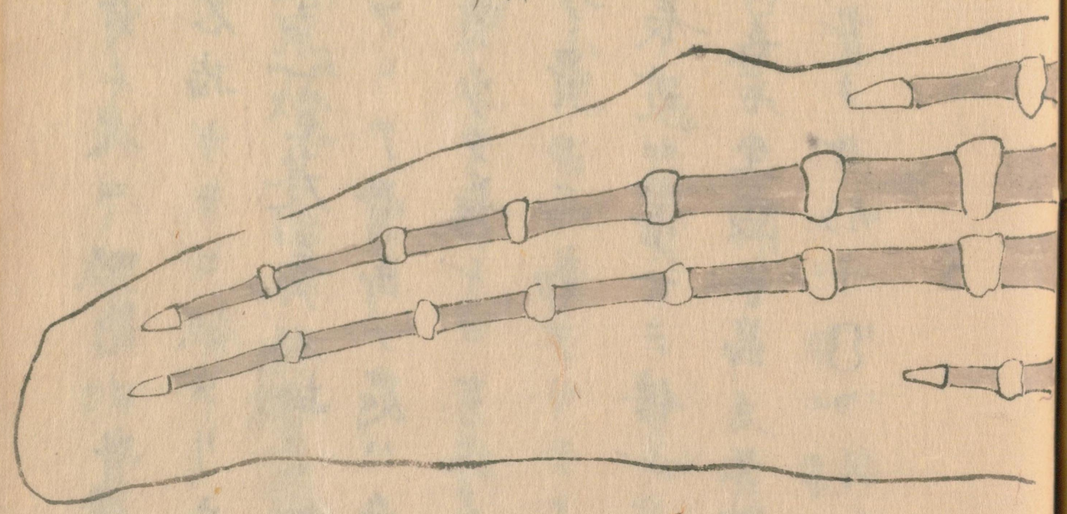




国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

座頭領旁鰭骨圖





国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

異ナリ坐頭ハ右大軟骨ノ次ニ四箇ノ骨アリテ人手ノ如ニシテ無名指ナキニ似タリ先第一ノ骨ハ二節アリテコレモ人手ノ拇(テホヒ)ノ如シ第二第三ノ骨ハ七節アリテ骨節ノ處ハ參差等シカラスメ第三ノ骨少ク長シコレモ人手ノ將指ニ似タリ第四ノ骨ハ三節アリテ人手ノ小指ノ如シ第三ノ長サハ第一ニ倍シテ第四ノ骨ノ三倍アリ勢義モ坐頭モ節々ノ間ハ皆軟骨ナリ節ノ切放シタル形チ8カクノ如ナル故一節ヲツヽロハ席ヲ織ルニ用ル器ナリ

児鯨長須立羽ノ骨節ハ未タ聞カス大骨ノ下間ノ肉ニ輪骨二ツアリ蓮花骨クラ骨ハ未タ詳カナラス惣骨數大小凡百四十七アリ

鯨骨ノ解キ方法アリテ之ヲ解クニ甚巧拙アリト云

法師骨碑之(ヲ)絞(リ)採其膏(ヲ)點(ス)燈(ニ)其澄與餘骨共用(テ)膏(ニ)腴(スル)井蔗(ヲ)尤(モ)佳(シ)鯨志

軟骨ヲ舂キテ突(ツキ)骨トテフノリ様ノ物ニ製ス

又ホリノハヒニモ造ル

附録寰宇記有人往林邑於海嶼上得鯨頭骨如數百斛囷頂上一孔大如甕俗以為珠穴致格

鏡原

夷人ツナカイトニ章カスルソリノ縁ニ鯨骨ヲ鋲ニテ打堅ム邊要分畏圖考ニ見エタリ

カムサスカ鯨頭骨ヲ家具ニ用ユ邊要分畏圖考

神經

スチ

頭ヨリ尾ニ至リテ皆筋アリテ經絡ヲ通ス立羽ニモアリ煑テ食ヘハ脆美ニシテ口ニ可ナリ少キ魚ノ筋ハ善シ老タルハ赤身アリテアシヽ筋ヲサキ様上手下手アリ上手ノコサキタルハコサクホト白クナリ下手ハコサクホト黑クナル至テ金目ナルモノナリ鯨多ク獲テ筋多留リタルトキハ塩ニ漬テ先採塩出シテコサタナリ

筋達羽ヨ為リ綿ヲ打号の弦ヨ作ル價い高直

より打綿ハ明暦の頃唐人長崎ニて初て打其
持来る弓弦牛の筋ヨて作りたりと云万治年
中長崎の方吉と云へる者鯨の筋を弦とし其
以前ハ料理ニせり 鯨記

附録亞墨利加ノナアツカ島ニテハ鯨ノ死
ニテ海岸ニ流レ寄リタルヨリ筋ヲ取草ヲ
縫フ絲ニ用ユルト云 環海異聞ニ見エタリ

脂

アブラ

鯨志ニ云稲秧生ス蚝蜉ヲ灌ク之ヲ佳ニ他鯨油薄ク切但脊
義ヲ為然 刪訂鯨志

油諸鯨皆可ニ為ス燈油ト獨以テ末狐海鰮鯨之二種ヲ唯
可ニ共夏燈ニ至リ于冬寒ニ之時凝凍難ニ用ヒ長須亦難ニ供
也 刪訂鯨志

脊義白長須ニ多シ児鯨ノ脂能金瘡ヲ愈ス速
功アリ又湯潑火傷ニ妙ナリ 鯨漁叢話

按ニ此諸説ハ皆煎シタル油ヲ云ヘリ

附録東海鯢魚熬油注ニ小瓶内瓶口以ニ麻縄ヲ栓

緊偶ニ賊船ニ以紙燃蘆香油點火投入瓶内ニ以物塞瓶口ヲ擲于賊船燃之瓶破火發若以水澆ハ
愈燃愈焚油盡方息（喻我兵衛）

右ハ鯨魚ノ全体ヲ通釋ス

臓腑

ドウグ（臓腑ヲ總テ道具トス）

上臓

下臓（開エカヽリタル處ヲ云フ）

カサ（腸ニ絡ヒ付テアル物ヲ云）

カサハ解体新書ニ所謂下膈膜ナリ

氣管

ノドワ

舌ニ接シテ相連ナルヿ珠數ノ如シ食スベシ

心

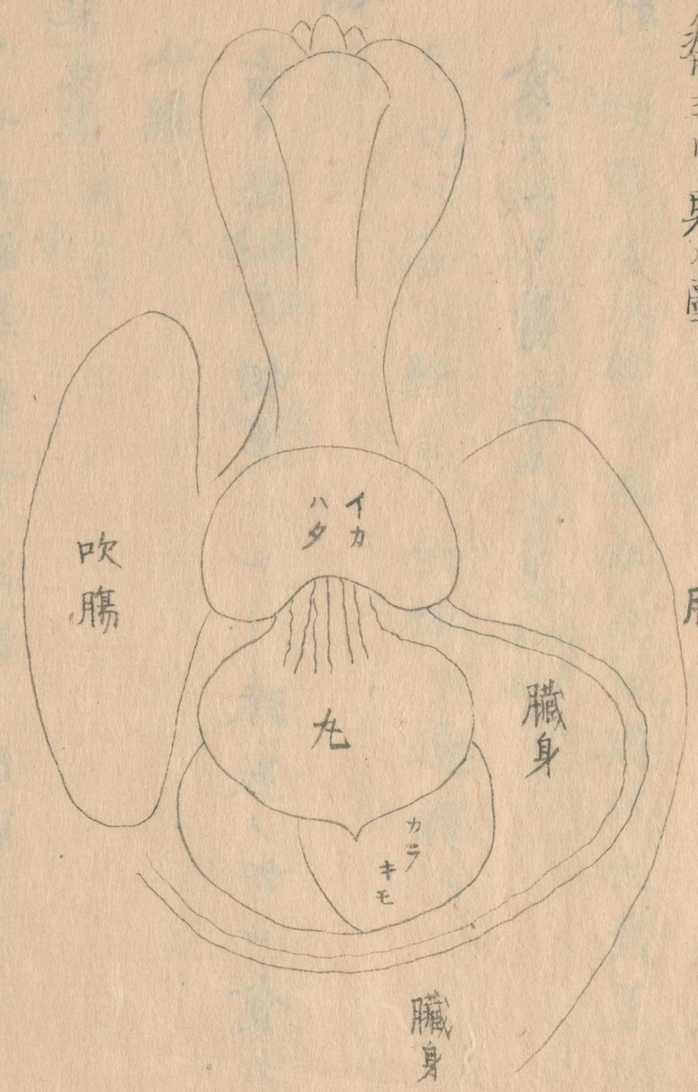
テウシ

食スヘシ膏強シ

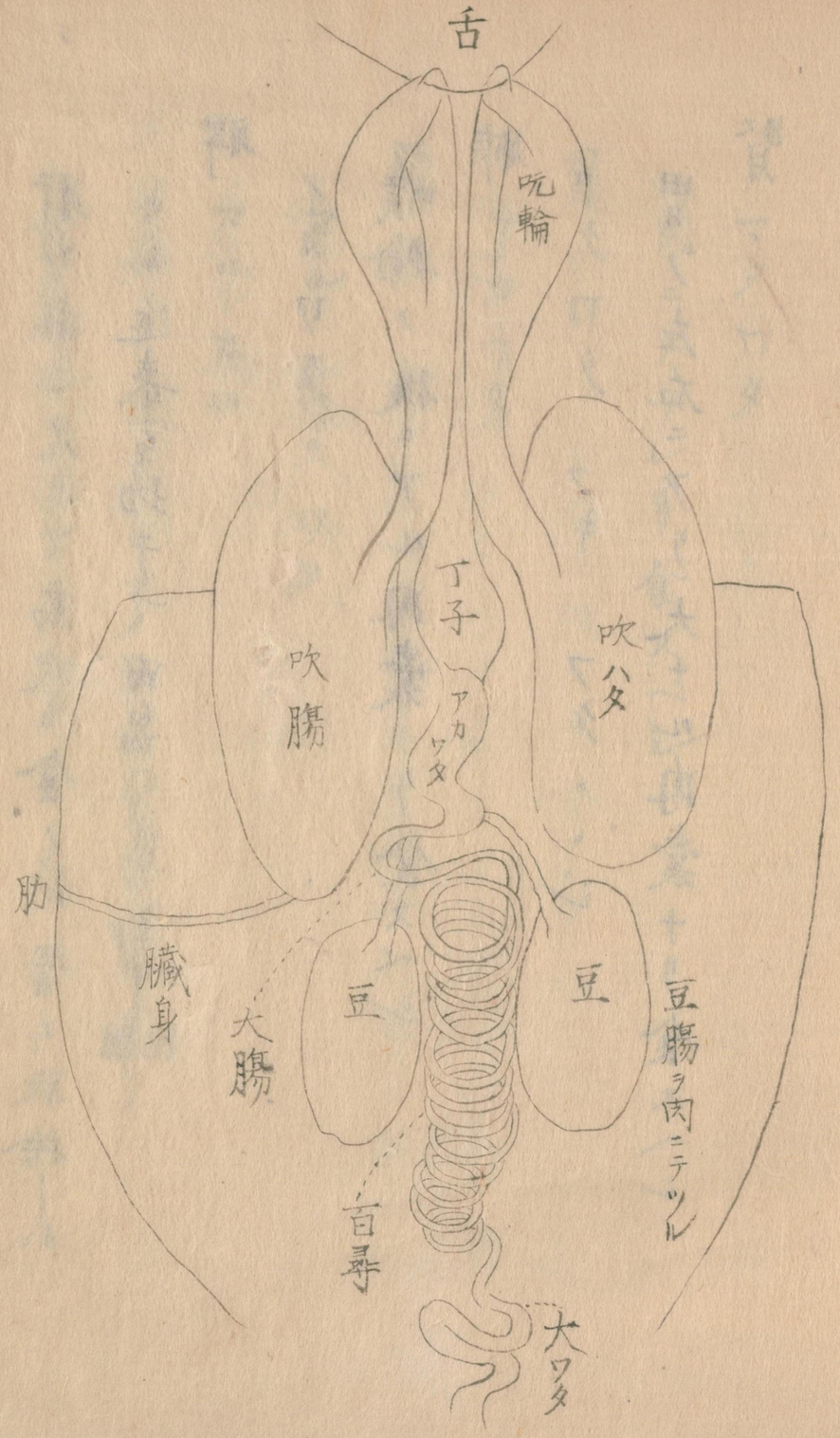
肝

カラキモ

内景ヲ脊ヨリ見ル圖



内景ヲ腹ヨリ見ル圖



国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

肝も毒と凡そて鳥犬も食ふ、昔も取捨しかとも近来も切手て田畠の糞とす 鯨記

脾

イカワタ

喉輪ノ後ニアル肉嚢ナリ食スベシ

肺

フクワタ　フキ　フク、ハシ

胃ノ左右ニアリ大ナル肉嚢ナリ食スヘシ

腎

マメワタ

肉ニテツレリ食スベシ

胃

アカワタ

膽

マル　ウスワタ

マルカハ

マルノ左右ニマメトゝアリ腎ナリ

食スベシ

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72　ガラス使用

皮ハ白シ大鞁等ヲ張ル

大小腸

ヒヤクヒロ

大ワタ開ニ續キタル

トロロヲ云

大腸ハ人ノ肉色ノ如クニメ風其中ニ滿テリ

油ヲトルナリ

座頭脊美見鯨ノ三鯨可共食用其他三鯨所有者

雖亦可食味甚劣但漁民用以助饌耳不共賓客

及中人以上之食 刑訂鯨志

千百尋痢病虐ニハ年久シキヲ用テヨシ 鯨記

子宮

コブクロ

腹子持ニテモ子ヲ産ミテモ當分ノ内ハ腹ノ

内ニアリ魚ニヨリテ油トルモアリ又食スベ

シ

コレ輪

子袋ノ内ニアリ食シテヨシ

白子腹子持ニアリ

職ノ赤身至極悪シ

右ハ鯨魚ノ内景ヲ釋ス

鯨史稿巻之三

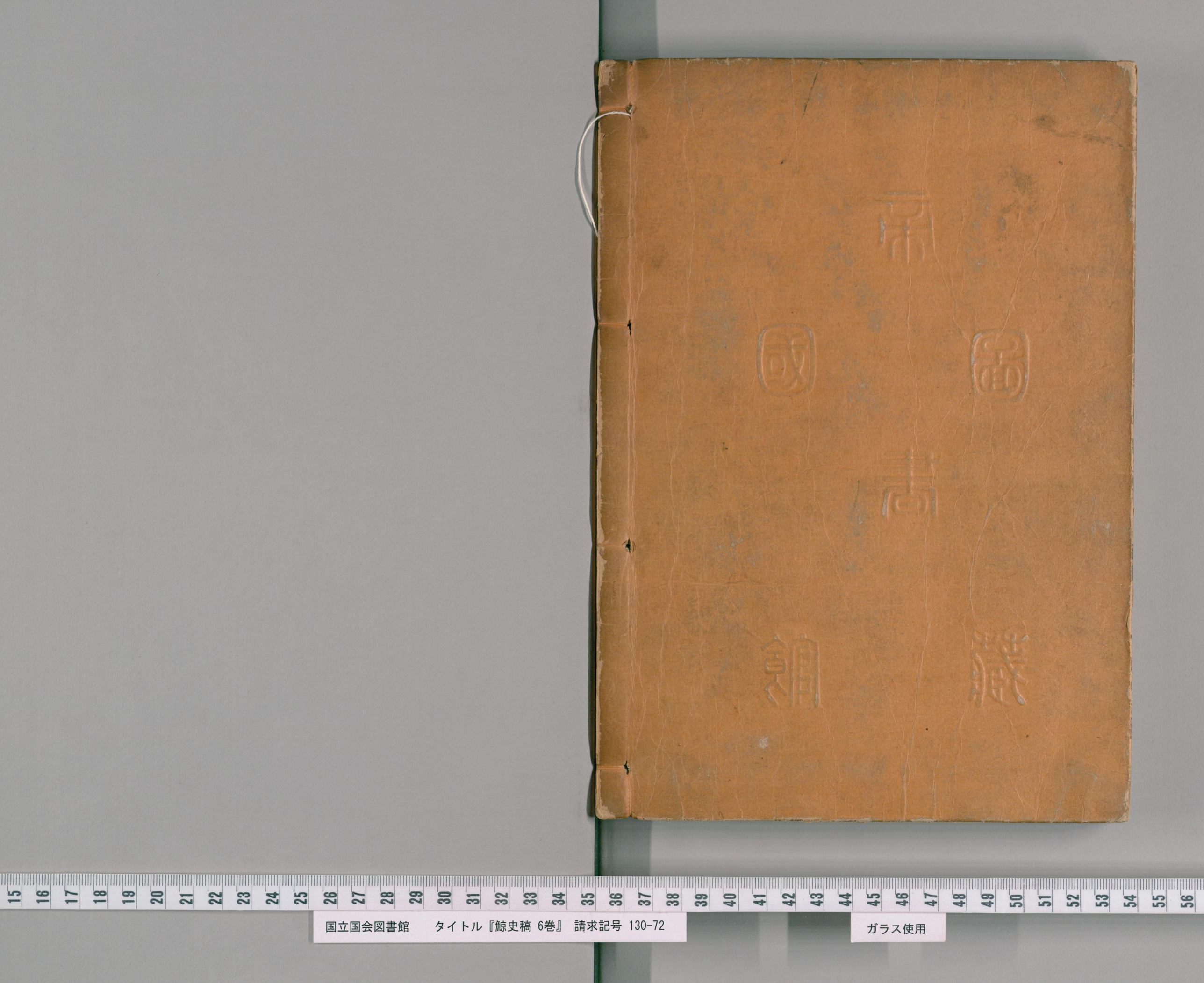
国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

130
6
72

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用